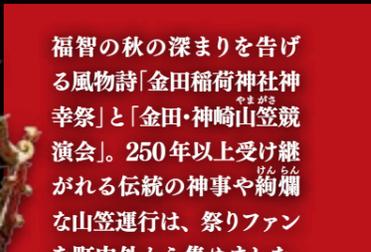




# 雨 払う 熱

顔とも言える武者人形を守るため、覆いに包まれながらもやわらかな光を放つ山笠は、いつもとは違う光景を浮かび上がらせます。前例の無い両日の雨の中、祭りを愛する人々の熱気は逆に例年以上の高まりを見せました。



福智の秋の深まりを告げる風物詩「金田稲荷神社神幸祭」と「金田・神崎山笠競演会」。250年以上受け継がれる伝統の神事や絢爛な山笠運行は、祭りファンを町内外から集めました。

# 金田稲荷神社 神幸祭

# 金田・神崎山笠 競演会

電飾煌めく山笠が並び立つ庄巻の競演



2日目でしたが、開始直前の強雨で無情にも競演は中止に。突然の幕切れに、惜しみつつ帰路につく人や雨に打たれ立ち尽くす人の姿が印象的でした。それぞれの思いは地元でのかけ声となり、夜更けまで町に響きました。

前日以上に昇き手が集まった。夜には神崎4地区が加わり、計7基の山笠が会場の金田駅裏イベントパークに集結。コンクリート舗装を施し強度を増した広場で重量5トンを超える山笠が対になり、豪快に練り回す姿は来場者の心を奪いました。

曇り空を打ち払うかのようになかけ声とともに、一稲荷神社神幸祭が10月21・22日に行われ、町を祭り一色に染めました。金田6地区では山笠が轍の跡を残しながら、色彩豊かな法被でそろえた昇き手とともに勇壮な姿を披露。村回りを終えると神社下でご神体を乗せた神輿を迎え入れ、御旅所への「お上り」「お下り」に付き添い五穀豊穡と無病息災を願いました。夜には神崎4地区が加わり、計7基の山笠が会場の金田駅裏イベントパークに集結。コンクリート舗装を施し強度を増した広場で重量5トンを超える山笠が対になり、豪快に練り回す姿は来場者の心を奪いました。

